

血液事業とは

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける人を募集し、人の血液を採取し、血液製剤（人の血液又はこれから得られた物を有効成分とする医薬品。輸血用血液製剤と血漿分画製剤がある。）として、治療を必要とする患者さんのため、病院等に供給する一連の事業のことをいいます。

平成19年には、全国で1年間に約494万人（延べ数）の方々に献血の御協力をいただきました。血液は、現代の科学技術をもってしても、未だ人工的に製造することができません。また、献血いただいた血液は、患者さんの治療目的に合わせた分離・加工がなされ、輸血用血液製剤や血漿分画製剤となって、治療に使われますが、血小板製剤など、その有効期間が非常に短いものもあります。

こうしたことから、常に誰かの献血、善意が必要とされています。

血液製剤は人の血液から作られるため、ウイルス等の混入による感染のリスクがあることが知られていますが、より安全性を向上させるため、様々な取組がなされています。日本赤十字社では、献血いただいた血液に対して、血清学的検査やB型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）及びヒト免疫不全ウイルス（HIV）の核酸増幅検査（NAT）を実施しており、平成19年1月からは全ての製剤について白血球を除去する製造方法を導入しています。また、血液製剤による感染

が疑われる事例が発生した場合には、遡及調査を行い、速やかに回収等の措置がとれるようにしています。

また、血液製剤は人の血液を原料としていることに鑑み、倫理性、国際的公平性等の観点から、国内自給が望ましいとされています。我が国では、採血の対価として金銭を提供することを禁止し、国民のみなさんの善意による「献血」の推進を図り、国内自給の達成に取り組んでいます。

いのちをつな

「アンパン



りょうすけくんと妹のなっちゃん



神戸・三宮センタープラザ献血ルームでの血の様子（1月27日から「ミント神戸」15階）

**ありがとうの
気持ちがあふれ**

2001年1月、りょうすけくんは7歳になりました。この間、下痢、1カ月間の外泊が続き、りょうすけくんは父兄、悲しい時間を過ごしました。医師が落

らねて、お母さん、おじいさん、おばあさん、お爺さん、お婆さん、みんなの力で元気が元々、いつか元気な子に育つかな、と願っていました。言葉が通じない、耳が聞こえない、お母さん、おじいさん、おばあさん、みんなの力で元気が元々、いつか元気な子に育つかな、と願っていました。

らねて、お母さん、おじいさん、おばあさん、お爺さん、お婆さん、みんなの力で元気が元々、いつか元気な子に育つかな、と願っていました。言葉が通じない、耳が聞こえない、お母さん、おじいさん、おばあさん、みんなの力で元気が元々、いつか元気な子に育つかな、と願っていました。

平成19年2月1日発行
赤十字新聞から転載

テレビ新広島HPにも、りょうすけくんのことが取り上げられています。

<http://www.tss-tv.co.jp/news/anpan/>

ミコラム 献血者数と実際に血液製剤を投与された患者数（推定）

平成18年の献血者数は、全血採血と成分採血を合わせて、約499万人（延べ数）でした。一方、実際に血液製剤を投与された患者数を正確に把握することは現実には難しく、全国規模での統計はありませんが、東京都での平成18年輸血状況調査集計結果に基づき、以下の方法で全国の輸血患者数を推定したところ、約100万人となっています。

全国の推定輸血患者数 =

$$\frac{\text{輸血用血液の年間総供給単位数(全国分)}}{\text{東京都輸血モニター病院の年間総輸血単位数}} \times \text{東京都輸血モニター病院の年間総輸血患者数}^*$$

※同一人が最後に輸血を受けてから30日以上間隔をおいて輸血を再開した場合は、それぞれ1人として算定。

